



# 離床インストラクター・アドバイザー プレアドバイザー認定試験

筆記

## 模擬問題

7月に行われる認定試験の模擬問題を配布いたします。試験対策としてお役立て下さい。

### プレアドバイザーレベル

#### 問題 1.

肺炎で入院している患者に離床を開始しようと考え、患者の表情をアセスメントした。下記の表情の観察で、アセスメントできないものを一つ選べ。

1. 苦悶の表情
2. 鼻翼呼吸
3. 口唇のチアノーゼ
4. 酸素マスク類の異常
5. ラトリング

#### 問題 2.

ベッドから端坐位を起こした際に、めまい・吐き気を訴えた。可能性として起立性低血圧を疑った。起立性低血圧の原因として誤っているものを1つ選べ。

1. 血漿量の減少
2. 下肢骨格筋の筋ポンプ作用の低下
3. 心疾患による心機能低下
4. 尿量低下
5. 動脈圧受容反射の減衰

#### 問題 3.

吐き気を訴え離床が阻害されているため、消化管運動改善薬の投与を検討した。内服投与の特徴として誤っているものはどれか1つ選べ。

1. 胃腸障害を受けやすい
2. 作用発現時間が遅い
3. 吸収量に差がある
4. 嚥下困難患者に有効
5. 投与が容易

#### 問題 4.

脳梗塞急性期患者の離床を検討中である。脳循環自動調節能について正しいもの1つを選べ。

1. 自動調節能とは一定の頭蓋内圧を保つ機能の事をいう
2. 自動調節能が破綻した場合に問題なのは血圧が低下した時の虚血のみである
3. 自動調節能は収縮期血圧 50mmHg~150mmHgの時に脳血流が一定に保たれる
4. 自動調節能は拡張期血圧 50mmHg~150mmHgの時に脳血流が一定に保たれる
5. 自動調節能が破綻した場合、血圧が高くなると、脳血流も上昇する

#### 問題 5.

心不全の既往があり、循環動態が不安定な患者の離床時の対応について正しいものを一つ選べ。

1. 血圧測定は離床後のみ行う
2. 足が冷たかったので靴下を履かせて積極的に離床をすすめた
3. 軽い息切れをしていたが、本人の自覚症状がなかったので、立位・歩行へすすめた
4. 弾性ストッキングを履いていれば起立性低血圧の心配は絶対ない
5. ヘッドアップを30度から60度へと行い、血圧や自覚症状を聞きながらゆっくり離床をすすめた

#### 問題 6.

下側肺障害のある患者に対して、前傾側臥位に体位変換を行った。適切な前傾側臥位のポジショニングとして誤っているものを一つ選べ。

1. 頸部は伸展位にする
2. 大きめの抱き枕を置き、体圧分散をはかる
3. 下側の上腕に抱き枕が乗らないようにする
4. 下側の足首に補助具を入れて腓骨頭の除圧をはかる
5. 枕は十分な高さのあるものを選択し、頸部が側屈中間位となるようにする

#### 問題 7.

誤嚥性肺炎で入院し、人工呼吸器管理で鎮静剤使用中の72歳女性患者。発熱が続き、解熱剤使用しても持続的な解熱は得られていない状態。看護師からの情報で、側臥位時の清拭で血圧低下はみられないとのこと。全身管理と離床の方針として、誤っているものはどれか。一つ選べ。

1. 発熱・胸部レントゲン・検査データをリンクさせ、炎症状態を把握した。
2. 血圧をモニターしつつ、前傾側臥位を試みた。
3. 離床による相乗効果を狙って積極的に端座位を行った。
4. 新たな肺炎を予防するため極力Head Upで管理した。
5. 拘縮予防のために関節可動域運動 (ROMエクササイズ) を行った



出題指針：各資格 70 問 五肢択一・五肢複択式 試験時間 90 分

プレアドバイザー 難易度：★★☆☆☆

アドバイザー 難易度：★★★★☆

インストラクター 難易度：★★★★★

出題範囲

合格要件はこちら→



アドバイザー・インストラクターレベル

問題 1.

低蛋白血症時の離床について誤っているのを選べ。

1. 離床によって栄養状態を悪化させる可能性がある
2. 脳出血や消化管出血出現の可能性がある
3. 体位の変化によって呼吸状態悪化の可能性がある
4. 褥創発生の可能性がある
- 5.モチベーションの低下の可能性がある

問題 2.

人工股関節置換術を施行後に段階的に離床を計画するが、深部静脈血栓症の合併症に注意が必要である。深部静脈血栓症について誤っているものを1つ選べ。

1. 症状が出ない無症候性深部静脈血栓症がある
2. 比較的风险が高いものは人工股関節置換術である
3. 深部静脈血栓症になると必ず肺塞栓を併発とは限らない
4. 深部静脈血栓症の検出率が高いのは腓腹動脈である
5. 深部静脈血栓症予防ガイドラインでは抗凝固剤の使用を推奨している

問題 3.

人工呼吸器の PSV (pressure support ventilation) に関する記載について誤っているものを1つ選べ。

1. PSV は、患者の自発呼吸に対し患者の吸気のタイミングに合わせて一定の圧をかけてサポートする
2. PSV を使用する目的には、換気量の増加、呼吸仕事量の軽減が含まれる
3. 呼吸器の設定が適切であれば自発呼吸が無い状態でも作動する
4. PSV では呼気に移行するタイミングも患者の呼吸に合わせて行われる
5. PSV では患者の自発呼吸の深さや吸気の長さなどより換気量が変化する

問題 4.

臥位で頸静脈怒張がみられないと予測されるのは下記のうち一つ選べ。

1. 心タンポナーデ
2. 三尖弁閉鎖不全症
3. 右心不全
4. 収縮性心膜炎
5. 出血性ショック

問題 5.

血糖降下剤・インスリン使用患者の対応で誤っているのはどれか1つ選べ。

1. 1 型糖尿病患者にはインスリン注射を行う
2. インスリンの単位数を変更した当日や翌日は特に高・低血糖症状に出現に注意して離床をすすめる
3. 食前やインスリン投与直後の運動負荷は避ける
4. ボグリボース (ベイスン®) を使用している患者が低血糖を起こした場合、砂糖を用いる
5. インスリン製剤は作用発現時間・作用持続時間によって分類される

問題 6.

人工呼吸器管理の患者に対し、ベッド頭側挙上 (Head Up) を検討した。45 度 Head Up の実施目的として適切でないものを2つ選べ。

- 選択肢： a) 褥瘡の予防  
b) 換気効率改善  
c) 脱水患者の起立耐性改善  
d) 人工呼吸器関連性肺炎 (VAP) の予防  
e) 誤嚥性肺炎の予防

1. a, b    2. b, c    3. c, d    4. d, e    5. a, c

問題 7.

82 歳男性。診断名は脳梗塞後遺症による廃用症候群で、合併症に糖尿病がある。現在、訪問サービス利用中。トイレ介助時に立位保持を促したところ、突然膝折れを生じ意識消失を起こした。アセスメントとして、誤っているものを2つ選べ

- a) デキスターチェックで血糖測定を行った。
- b) 救急要請を行った。
- c) A : Airway (気道)、B : Breathing (呼吸)、C : Curculation (循環) の確認を行った。
- d) 頭蓋内圧や誤嚥を考慮して、Head Up 30° で管理した。
- e) 手足が冷たかったので、タオルや毛布で温めた。

1. a, b    2. b, c    3. c, d    4. d, e    5. a, c